

地域未来牽引企業トップインタビュー

第1回

(株)東日本技術研究所

代表取締役社長 鈴木 茂夫氏

経済産業省は、地域経済牽引事業の担い手となる地域の中核企業として「地域未来牽引企業」を全国で2148社選定した。選定されたのは、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引してもらうことが期待される企業である。これらの企業が事業性の高い地域産業や良質な雇用の創出を行えば、地域が投資・人材を呼び込む好循環をもたらし、地域を元気にすることに間違いはない。

茨城県では45社が選定された。帝国データバンクでは茨城県を更に魅力のある地域とすべく、これらの企業のトップへのインタビューを行い、様々な取り組みを紹介していきたい。

記念すべき第1回目は、日立市でソフトウェアの受託開発を行う株式会社東日本技術研究所の鈴木社長にお話をうかがった。

(聞き手：水戸支店長 神尾 友勝)

—「地域未来牽引企業」の認定おめでとうございます。まずは御社のビジネスモデルを教えてください。

ありがとうございます。当社はソフトウェアの受託開発を行っています。主にナビゲーションシステム、自動運転・自動ブレーキ関連のシステム、



鈴木茂夫社長

鉄道の運行管理システム、上下水道の監視制御、高速道路関連などのインフラ系が多いです。また、病院の電子カルテのシステム開発を行えるのは茨城県では当社だけです。鉄道運行管理システムに関してはロンドン(テムズリンク線)やインド(貨物用の鉄道)などの海外の運行システムの開発も行っています。ここまでは普通のソフト開発会社と変わらないのですが、当社の特徴としては多拠点展開を行っているところです。同業は拠点が2~3拠点の企業が多いですが、当社は現時点で11拠点あります。それは採用面で有利に働いていると思われま。特に、今は東京で活躍したいが、将来は日立や北茨城に戻り、地元に貢献したいという思いを持つ社員の願いもかなえてあげるこ

ができるというメリットがあります。通常だと転職しなければならないところを一つの会社で出来ますからね。

—地域貢献についてはどのようにお考えですか。

当社では「Be Happy Together!」を合言葉に社員を「人財」と呼んでいます。地元貢献という意味では、地元の「人財」を積極的に採用していますし、県外の「人財」の採用も行い、茨城県に呼び込んでいます。これまでも1年間で40名～50名の社員が増加しています。茨城県の同業でこれだけ社員が増える会社はないと思います。そして、社員が誇りを持って仕事にあたることで、私たちの開発するソフトウェアの品質が向上し、良いシステムをお客様に提供できます。そうすればお客様とともに「Be Happy Together!」が共有できます。特に当社のようなソフトウェア開発という仕事においては、人を信じて育てることが地域、地元貢献につながると考えています。事業拡大により雇用を拡大することは地域貢献の一つではないでしょうか。当社では他県から採用するケースも年々増えており、日立市の人口増加にも役立っているとも自負しています。(笑)

—現在採用に苦労している企業が多いですが、採用の秘訣はありますか。

私自身、現在は採用に携わることは少ないですが、創業時はハローワークには毎日のように通いました。それこそ職員に迷惑がられるくらいです。私は営業出身ですのでやはり人と人とのつながりを大事にしたいと思っていますからね。今でも拠点の責任者に「待っているだけではだめだ」と徹底しています。これが他社との大きな違いですね。また、勤務地などの希望を

極力かなえてあげようとしている点もプラスに働いているかもしれません。

—採用と人材育成に注力されていますが、創業からこれまでに苦労したことはありますか。

当社は創業より30年を超えています。茨城県ではまだまだ後発組だと思っています。当社より長い業歴を持つ老舗企業は外注先を持ち、効率的な開発を行っている企業もあります。そのため、当社の一人当たりの売上げはまだまだ低いと思いますが、創業時から人間勝負であると一人一人を大切に努力を心がけてきました。社員第一、お客様第一と考え、私を頼ってきた人間を信じ、全力で応えようと思ってきました。しかし、会社設立から2年後取引先の親会社に社員を引き抜かれるという危機に直面したのです。それも1回だけではありません。「人財」が資本の会社なので、引き抜きや独立は経営上の最大の危機です。本当に七転八倒でした。今の当社があるのは、取引先の援助や残った社員の頑張りによるものが大きいですね。だから、お客様や社員は何よりも大事にしようと思っています。その結果が右肩上がりでの成長につながっていると思っています。

—そのような窮地を脱し、事業拡大のきっかけとなった出来事がありますか。

それはいわき事業所の開設ですね。もともとはいわき市出身の社員が地元で働けるようにとの配慮からでしたが、前職でお世話になっていた先輩の人脈により、いわき市にあるカーオーディオを製作するアルパインの工場との取引が始まりました。現在では当社の主力得意先になっています。事業所を開設し、その事業所の従業員が頑張ることで業績拡大につながる。これが今のビジネ

スモデルにつながっていると考えています。また、社員の成長に伴い、自社製品の開発も手がけ、「1/f ゆらぎ（そよ風、川のせせらぎや波の音などの自然現象や人の心拍にも存在する現象）」理論を生かしたイルミネーションなどの癒しのテクノロジーや電子カルテなどの医療システムの開発も行うことができました。

—事業に対する想いを教えてください。

自分たちで値段のつけることができる仕事を続けていきたいです。理由のない値引きをしない。そうすることにより社員が自分たちの開発したソフトや仕事に誇りを持つことができると考えています。そのためには私が社員を信じることに尽きます。それで間違っただけでもたくさんありましたが、仕方がないと思います。それよりも誇りをもって楽しく働いてくれる社員が集まって力を発揮していけば、更にいい会社になり、地域や社会に貢献し続けることができると考えています。

—最後に将来像について教えてください。

2018年3月に他社資本も入れました。それはステークホルダーを増やして、様々な方に応援して

もらえる、そして会社が成長してそれを地域や社会に還元できる企業にしていくためです。もちろん、株式の上場という目標もありますが、事業承継という課題もあります。100年企業にしたいという私の夢をかなえる手段のひとつですね。これからは社員がのびのびと誇りを持って仕事に取り組める会社であり続けるため、コツコツと頑張っていきたいと思います。

—本日はありがとうございました。「人財」を大事にすることが、地域貢献につながると信じ実践し続ける当社の益々のご活躍を祈念します。

企業プロフィール

商 号：株式会社東日本技術研究所
(TDB企業コード：250269214)
所 在 地：茨城県日立市大みか町4-8-20
設 立：1985年2月（創業1981年8月）
資 本 金：5,000万円
代 表 者：鈴木茂夫
年 収 入 高：3,994百万円（平成29年6月期）
従 業 員 数：517名
業 種：受託ソフトウェア開発